

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

〈月報〉 平成18年8月 (第31～35週)

発行年月日：平成18年(2006年) 9月 13日
 発行 行：滋賀県衛生科学センター内
 滋賀県感染症情報センター
 電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 18年		平成 17年		感染症 類型	疾 病 名	平成 18年		平成 17年	
		1～8月	全 国	1～12月	全 国			1～8月	全 国	1～12月	全 国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	デング熱	0	31	1	73
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	19	0	62
	痘そう	0	0	0	0		日本脳炎	0	1	0	7
	ペスト	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0
二類	ラッサ熱	0	0	0	0		ブルセラ症	0	3	0	2
	急性灰白髄炎	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0
	コレラ	1	39	0	54		ボツリヌス症	0	1	0	3
	細菌性赤痢	*14	302	*27	556		マラリア	0	46	0	66
	ジフテリア	0	0	0	0		野兔病	0	0	0	0
	腸チフス	0	52	0	50		ライム病	0	7	0	8
三類	パラチフス	0	17	0	18		リッサウイルス感染症	0	0	0	0
三類	腸管出血性大腸菌感染症	34	2,549	12	3,567		レジオネラ症	10	324	3	276
四類	E型肝炎	1	52	0	40		レプトスピラ症	0	3	0	15
	ウエストナイル熱	0	0	0	1	五類	アメーバ赤痢	7	507	5	680
	A型肝炎	6	250	1	168		ウイルス性肝炎	0	176	2	277
	エキノкокクス症	0	16	0	18		急性脳炎	1	117	2	180
	黄熱	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	12	0	9
	オウム病	0	15	1	34		クロイツフェルト・ヤコブ病	0	107	2	147
	回帰熱	0	0	0	0		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	4	85	0	60
	Q熱	0	1	0	8		後天性免疫不全症候群	7	858	7	1161
	狂犬病	0	0	0	0		ジアルジア症	1	62	0	81
	高病原性鳥インフルエンザ	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	10	0	10
	コクシジオイデス症	0	1	0	5		先天性風疹症候群	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0		梅毒	3	415	0	555
	腎症候性出血熱	0	0	0	0		破傷風	0	73	0	114
	炭疽	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0
	つつが虫病	0	176	0	325		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	47	2	65

滋賀県における全数報告 感染症の概要(8月)

< コレラ疑似症患者 >

男性・56歳で海外旅行帰国後に下痢、軟便および脱水症状を示したが、コレラ菌は分離されませんでした。

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

散発事例：16名(患者9名、無症状病原体保有者7名)

性別 男性8名、女性8名
血清型および毒素型

O157 VT1・VT2 12名
O157 VT1 1名
O26 VT1 3名

年齢は0～9歳5名、10～19歳2名、20～29歳6名、30～39歳3名です。

< E型肝炎 >

女性・70歳で感染経路は不明、感染地域は日本国内です。

< A型肝炎 >

男性2名、女性2名で、全員食中毒事例による届出です。

< レジオネラ症 >

男性1名、女性3名で、感染経路は水系感染1名、塵埃感染1名、不明2名です。感染地域は全員日本国内です。

< アメーバ赤痢 >

女性・40歳で感染経路は不明、感染地域は日本国内です。

*1 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含む、

*2 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含む

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点に分かれています。

8月の概要

<インフルエンザ定点>

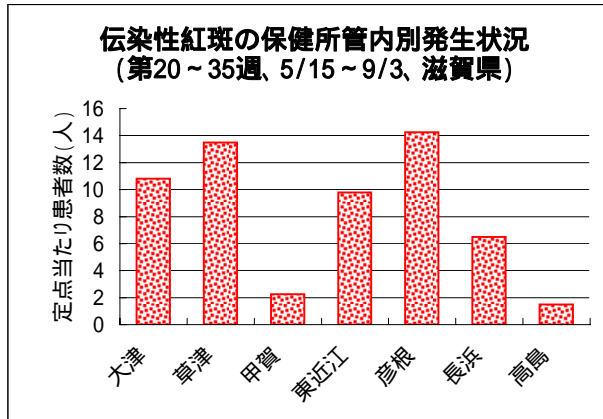
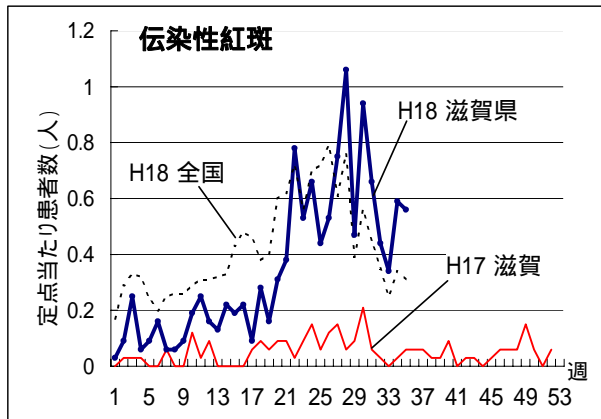
第31～32週に一部の保健所からの報告はありましたが、8月(第31～35週)の定点当たり患者数は0～0.04で推移していました。

<小児科定点疾患>

咽頭結膜熱、A群溶レン菌咽頭炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑(リンゴ病)、ヘルパンギーナおよび流行性耳下腺炎は先月より減少していました。手足口病については、先月より減少しましたが例年の同時期と比較すると非常に多く、また全国と比較しても非常に多くなっていました。伝染性紅斑についても先月より減少しましたが、例年の同時期と比較すると非常に多くなっていました。その他の疾患については、先月と比較して大きな変化はみられませんでした。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より増加し、特に甲賀保健所管内で急増していました。基幹定点疾患である無菌性髄膜炎は大津および長浜保健所管内から、また、マイコプラズマ肺炎は長浜保健所管内から報告されていました。



<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、咽頭結膜熱、A群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳、突発性発しん、ヘルパンギーナ、風しん(三日はしか)、麻しん、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、成人麻しん、クラミジア肺炎(オウム病を除く)

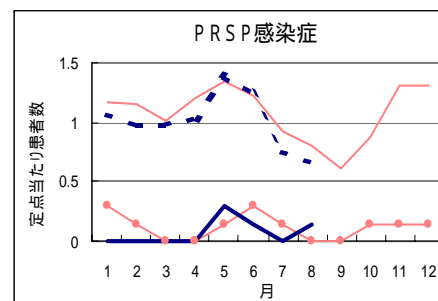
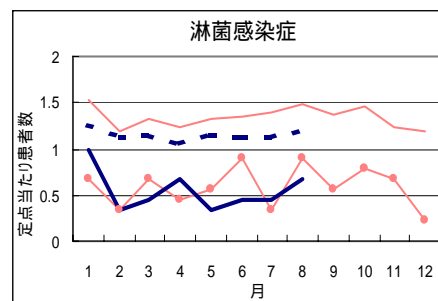
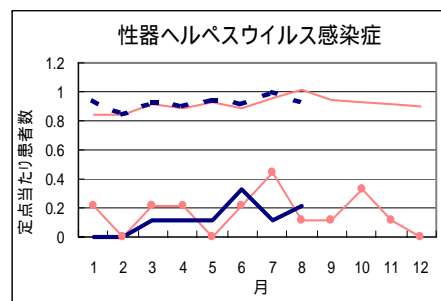
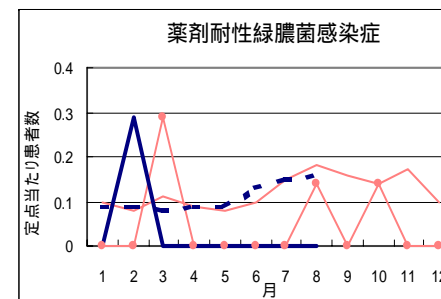
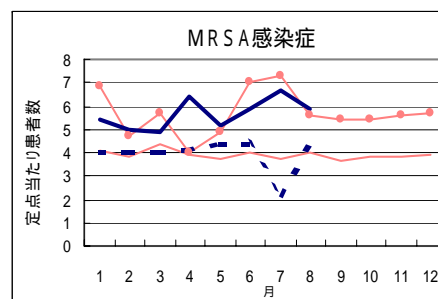
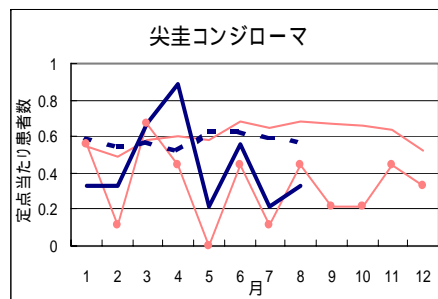
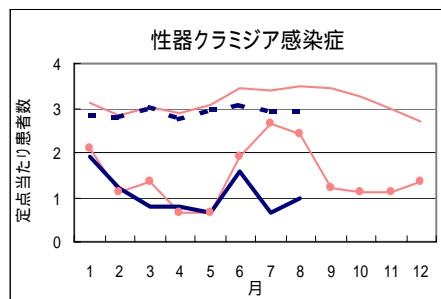
伝染性紅斑の発生状況は、平成18年第20週(5/15～5/21)から増加傾向を示し、昨年同時期の定点当たり患者数より多くなっています。また、平成18年の全国の発生状況と比較するとほぼ同様の発生状況となっています。

第20～35週における保健所管内別発生状況についてみると、草津および彦根保健所管内の定点当たり患者数がやや多くなっています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ** (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成18年8月)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
性器クラミジア感染症	罹患数	17	11	7	7	6	14	6	9					77
	定点当たり	1.89	1.22	0.78	0.78	0.67	1.56	0.67	1.00					1.07
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	0	0	1	1	1	3	1	2					9
	定点当たり	0	0	0.11	0.11	0.11	0.33	0.11	0.22					0.12
尖圭コンジローマ	罹患数	3	3	6	8	2	5	2	3					32
	定点当たり	0.33	0.33	0.67	0.89	0.22	0.56	0.22	0.33					0.44
淋菌感染症	罹患数	9	3	4	6	3	4	4	6					39
	定点当たり	1	0.33	0.44	0.67	0.33	0.44	0.44	0.67					0.54
MRSA感染症	罹患数	38	35	34	45	36	41	47	41					317
	定点当たり	5.43	5.00	4.86	6.43	5.14	5.86	6.71	5.86					5.66
PRSP感染症	罹患数	0	0	0	0	2	1	0	1					4
	定点当たり	0	0	0	0	0.29	0.14	0	0.14					0.07
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	2	0	0	0	0	0	0					2
	定点当たり	0	2.00	0	0	0	0	0	0					0.25

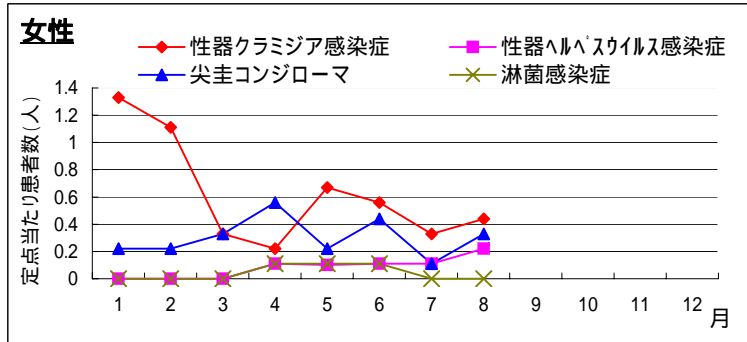
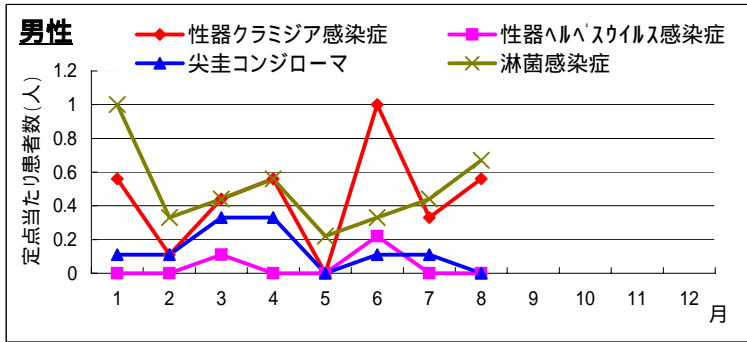


戻る

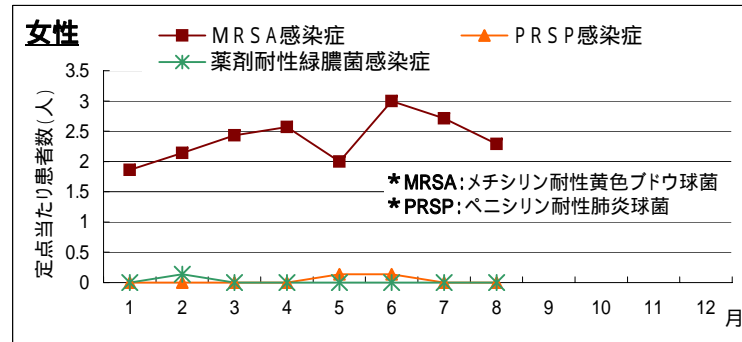
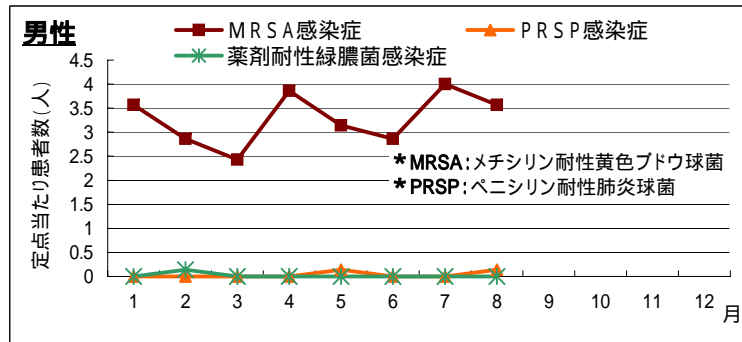
- H17 { 滋賀 ●●●
- { 全国 ———
- H18 { 滋賀 ●●●
- { 全国 - - - - -

MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況 (H18.8)

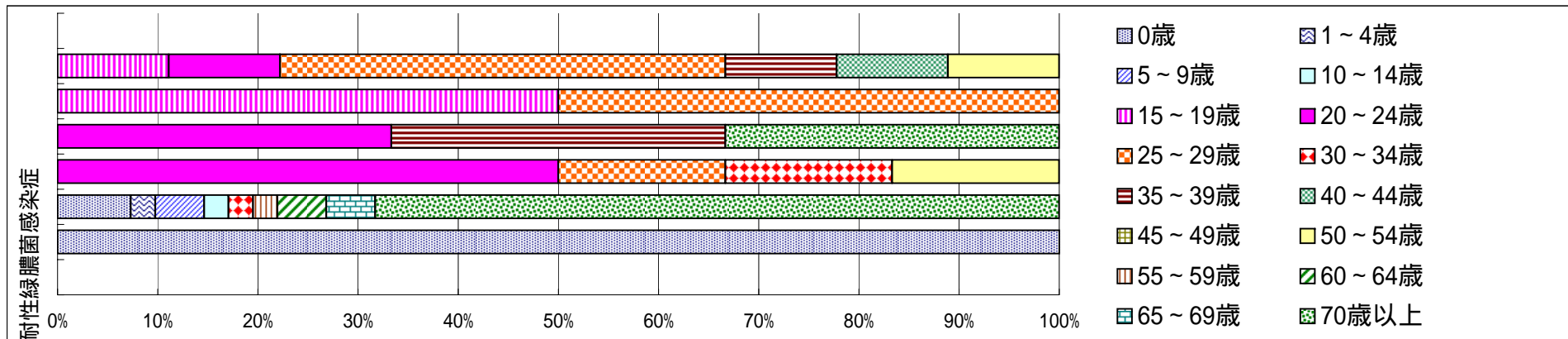


基幹定点における疾患別発生状況 (H18.8)

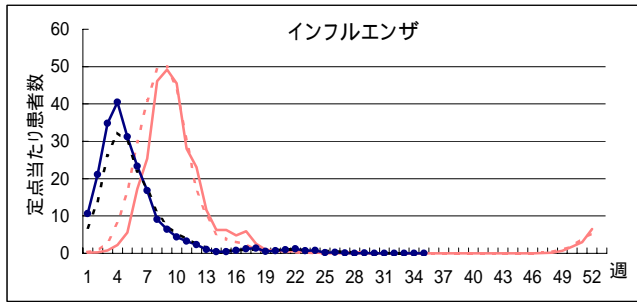


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、MRSA感染症は減少していますが、他の疾患については増加しています。なお、薬剤耐性緑膿菌感染症は報告されていません(詳細については性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況のグラフ参照)。
また、各疾患の月別・性別発生状況は左記のグラフのとおりです。性器クラミジア感染症は男性・女性ともに増加しています。また、淋菌感染症は男性で3ヵ月連続して増加しています。

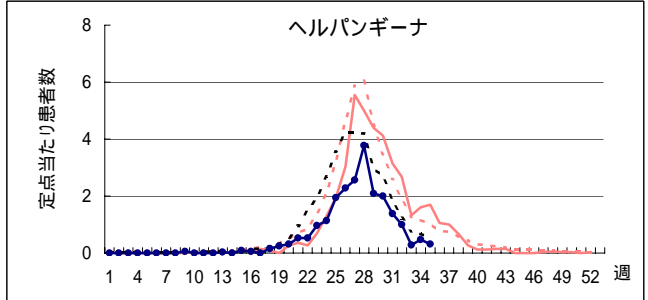
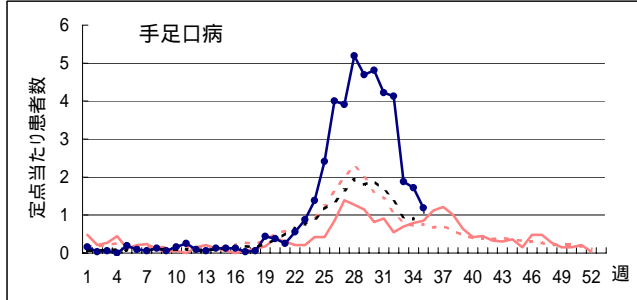
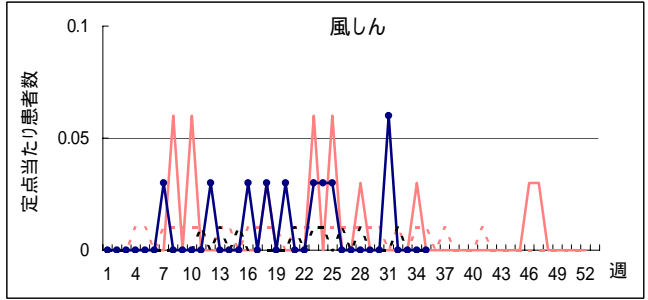
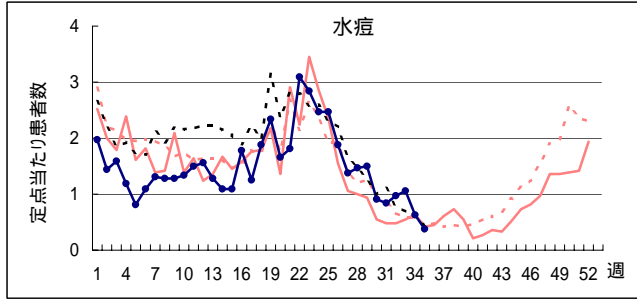
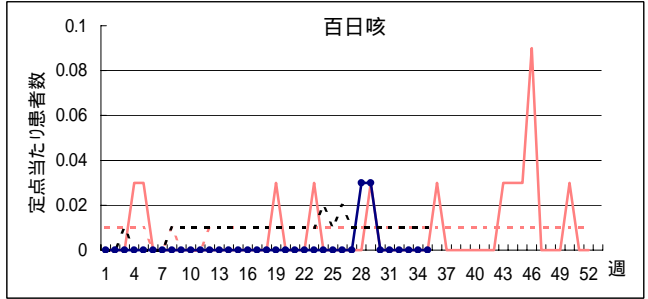
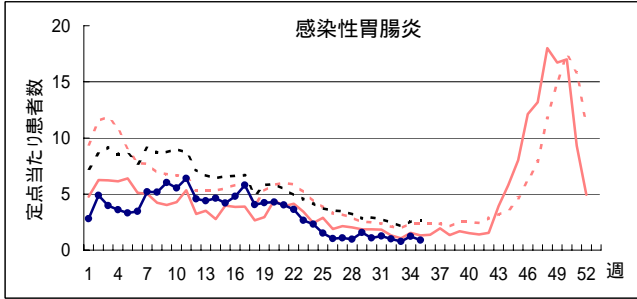
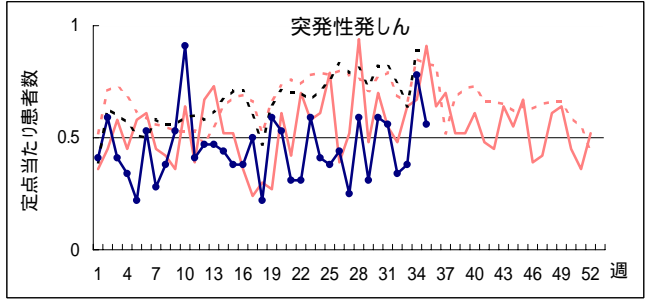
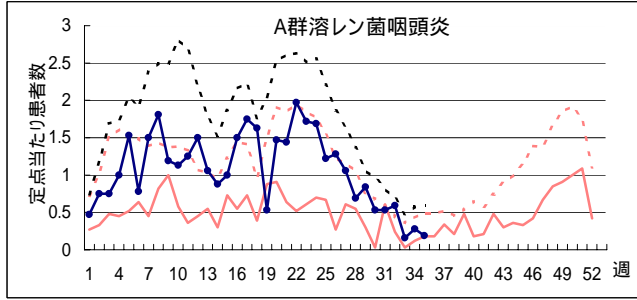
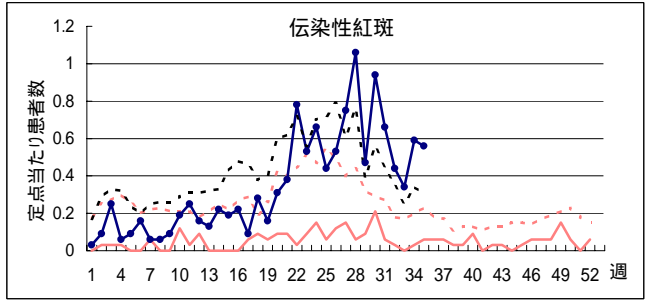
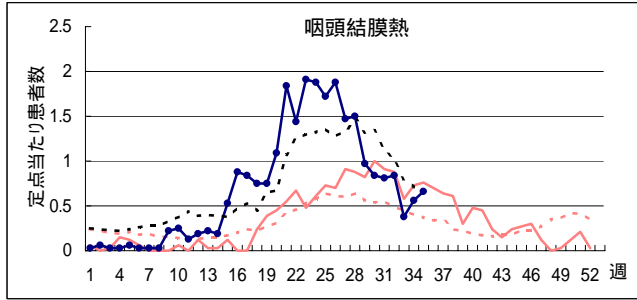
疾患別・年齢別発生状況 (H18.8)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第35週、H18.1.2～H18.9.3)



H17 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H18 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第35週、H18.1.2～H18.9.3)

H17 { 滋賀 ————
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●
全国 - - - - -

